

同窓会事業である創立 70 周年記念事業の欧州派遣が 3 年ぶりに実施され、選考された 5 名の生徒がオランダを訪問しました。生徒は高 3-2 の加藤杏珠さん、高 3-6 の大坪樹実さん、宮崎優花さん、西鶴園優来さん、高 3-7 の堀江一花さんです。日程は移動を含め、3 月 18 日～26 日の 9 日間の日程で行われました。欧州派遣の内容について、生徒が報告します。

ハーグのマウリッツハイス美術館でフェルメール作品を鑑賞

マウリッツハイス美術館は、オランダの国内政治の中心都市であり「平和と司法の町」と呼ばれているデンハーグにあります。大きな美術館ではありませんが、多くの有名な作品が展示されています。その中でも最も有名なものは「真珠の耳飾りの少女」です。私たちが訪れた時は他国の特別展示会に出展されており本物を見ることはできませんでしたが、映像で見ることができました。この作品はオランダの画家ヨハネス・フェルメールによって描かれたものです。この作品の特徴といえば青いターバンです。このターバンは当時オランダにとって異国のものであり、時代から格別した、趣が強いものといわれています。フェルメールの作品の約 30 点のうち、3 点がこのマウリッツハイス美術館にあり、とても魅力的でした。



連携校（Visser't Hooft Lyceum）での交流

ライデン市にある交流校の（Visser' t Hooft Lyceum）に行きました。この学校は 1900 年代の建物を学校として使用しており、東高のように歴史ある学校でした。1 階には大きなフリースペースがあり誰でも利用できるようになっています。食物を食べたり、UNO をしている人がいたり学校とは思えないような自由さが感じられました。

学校では 4 名の生徒がバディとして出迎えてくれました。これからお互い交流をしていく始まりとして、自己紹介をし、続いて東高の生徒 5 名による日本や東高を紹介するプレゼンテーションを行いました。さらに、オランダには平地が多く自転車での登校が当たり前なので、山の上にある東高の紹介をするとうどうやって登校をするのかなど質問が出ました。文化や生活の違いを紹介することでお互いのことを知るきっかけができました。



アムステルダムでの研修

アムステルダムはオランダの首都であり、町も綺麗に整備されていて、観光や商業が発達しています。アムステルダムでは、ゴッホ美術館と国立美術館に班で分かれて鑑賞しました。教科書にあるゴッホの「ひまわり」や、レンブラントの「夜警」を鑑賞しました。本物を観ることができたことは本当に貴重な経験でした。そのあとユダヤ人に関するモニュメントを見に行きました。ホロコーストで犠牲になったオランダ人の名前と死亡年齢が刻み込まれたレンガ 102,000 個でできた記念碑です。ユダヤ人虐殺の悲惨さや命の尊さを強く感じ、このようなことが二度と起こってはいけな

ロッテルダムでの研修

ロッテルダム駅を降りるとすぐに、キュービックハウスが見えます。オランダ人建築家のピエト・ブロム(Piet Blom)氏がデザインしたこの建物は、「家が一つの木になりその集合体が森になる。そしてオアシスが町の中に生まれる。」という考えのもと、設計されました。1982年に工事が始まり、完成したのが1984年です。完成前から家が完売する、人気物件でした。

ロッテルダム駅のすぐ近くにある、かまぼこ型の大型屋内市場マルクトハルは、壁面が鮮やかに彩られているのが特徴的です。建物の中には、アジアマーケットやスーパーマーケットなど、多種多様なお店が並んでいました。



キューケンホフ公園にて

キューケンホフ公園は、東京ドーム約8個分の広さのチューリップ畑です。チューリップが一面に咲いている光景は本当に感動します。見たことのないような特別な色や形のチューリップもありました。多くの国々から観光客がこの公園を訪れていました。そして、オランダの象徴である風車なども公園内にありました。オランダに風車が多くある理由は、地面が海面より低いオランダでは、昔から国内でよく洪水が起きていました。そこで、風の力で水をくみ上げ、排出する風車を使って安全を確保していたからです。



研修をとおして

私たち5名は、オランダの高校生4名とそれぞれバディを組み、約5日間のホームステイをさせていただきました。この経験は私たちにとって非常に貴重で、たくさんの新しい知識と視野を得ることができました。オランダの文化や言語、歴史、教育システムについて幅広く学ぶことができました。

言語については、英語を基本的に用いて話をしました。バディたちは英語を話すことができるためコミュニケーションに大きな問題はありませんでした。

オランダの歴史も非常に興味深かったです。アムステルダムのホロコーストモニュメントを訪れたり、ゴッホ美術館で有名な絵画を鑑賞したりすることで、オランダの歴史や文化の重要性を理解することができました。また、教育システムについては、オランダの学生たちは自主性が高く、クリティカルシンキングが重視されていることに驚きました。また、先生と生徒の関係がとてもフレンドリーで、質問しやすい環境が整っていました。

本やインターネットで知る情報と、実際行って見て体験して得る情報は全く違います。コロナ禍にも関わらず、このような貴重な研修の機会をいただいた長崎東同窓会の皆様、様々な調整や指導をしてくださった、長崎大学の山下龍先生に、感謝申し上げます。